

「情報公開文書」

研究課題名：次世代シーケンサーを用いた卵巢明細胞癌の組織学的構築異常をもたらす原因遺伝子変異の網羅的検索

倫理審査担当：国際医療福祉大学成田病院倫理審査委員会

承認（変更）日：西暦 2026 年 3 月 24 日 承認番号：24-Im-002-3

実施許可日：西暦 2026 年 3 月 26 日 許可番号：NHP 第 172 号

1. 研究の対象

2020 年 1 月～2022 年 3 月に当院で病理組織検査にて卵巢明細胞癌と診断された方

2. 研究目的・方法

卵巢明細胞癌は、卵巢にできる癌の種類のひとつで、化学療法が効きにくく、比較的予後不良であると考えられています。卵巢癌は日本では罹患者数・死亡者数とも増加しており、そのうち明細胞癌は 2 番目に多い種類の癌になります。明細胞癌はいろいろな構築（管状・胞巣状など）が混在しているのが特徴といわれています。

病理検体とは、生体検査（生検）や手術等で採取された患者さんの検体を指し、それを病理医が顕微鏡で観察して診断を行います。本研究では、国際医療福祉大学の病理診断科に保存されている既に診断された卵巢明細胞癌の病理検体を活用して、いろいろな構築ごとに RNA を抽出して次世代シーケンサーで解析し、構築を形成する原因となる遺伝子発現の差を見つけ、それを組織診断における応用につなげることを目的としています。

この研究を行う際には、病理部門システム内から下記の試料と情報を取得します。ホルマリン固定パラフィン包埋組織として保管されている卵巢明細胞癌の病理検体から切片を作製、mRNA を抽出して次世代シーケンサーで解析し、卵巢明細胞癌の特徴的な構築ごとの遺伝子発現変異を同定します。これらのデータは完全匿名化し、個人を特定できない状態にした上で、下記の研究組織内にて解析を行います。

尚、この研究が許可されている期間は、2024 年 4 月 23 日から 2029 年 3 月 31 日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：診断済みの卵巢明細胞癌の病理検体（ホルマリン固定パラフィン包埋組織）

情報：病理番号、臨床診断名、病理診断結果（臓器名、採取方法、病理診断名、病理診断所見）、mRNA 塩基配列および発現量、変異遺伝子

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

担当者：国際医療福祉大学成田病院 病理診断科 部長・教授(代表)

潮見隆之（研究責任者）

住所：千葉県成田市公津の杜 4－3

連絡先：[TEL] 0476-20-7701 [FAX]0476-20-7702

研究実施代表者：

国際医療福祉大学成田病院 病理診断科 助教

松岡 亮介